

平成20(2008)年6月14日第95号

学校だより

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

14925 Memorial Drive, Bldg A, Suite 130, Houston, Texas 77079

Tel. 281-493-1512 / Fax. 281-531-6730 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@airmail.net Home Page: www.jeihouston.org

日本語環境を整える



借用校舎 (Westchester Academy For International Studies) の廊下にはたくさんの国旗が飾られ、教室には英語やスペイン語・フランス語など様々な言葉が使用されているポスターや学習のための教材がところ狭しと掲示されています。私は国際色豊かなこの学校をととても気に入っています。

残念ながら、校舎内には日本に関するものはほとんどなく、年に数回、漢字 (中国語) を目にする程度なので、少々寂しさを覚えます。

土曜日一日だけは、この校舎を日本の学校にするために、教員は教科指導だけではなく、掲示物を利用して日本語の言語環境を整えることに腐心しています。日本語環境の中で生活するという事は、耳から入ってくる言葉だけではなく、目から入ってくる言葉もあり、これは、日本語の環境を整える上でとても大切な要素の一つである、と私は常々思っています。

教室にも日本語で書かれたたくさんの掲示物を貼ることができればよいのですが、むずかしい面があります。だから、教室の入り口や廊下に子どもたち

の日記や作文、授業中に仕上げた作品、グループでまとめた記録などを貼り出しています。欲をいえば、まだまだ貼り出すものや貼る場所があるようにも感じますが、掲示すれば、帰りには必ずはがさなくてはなりません。教員の仕事は増えますが、いつも子どもたちの目に触れるところに日本語がある大切さを私たちは再認識しなければなりません。

掲示物がたくさんあって、いつも子どもたちがそれらを見られるようにしておくだけが日本語環境を整えるということではありません。

朝や帰りのあいさつはもちろんのこと、いくつかの学級では、学級活動の時間を生かし、“1分間スピーチ”や“読み聞かせ”を行っています。授業以外で言語活動の場を設定し、日常生活のあらゆる場面で言葉と触れ合う機会を増やすことによって、日本語 (国語) がより身近なものになると思います、大いに賛同しています。また、学級だよりの中に、年中行事に関することを入れたり季節を意識した詩を紹介したりする教員もいます。

その他、児童生徒同士、児童生徒と教員は、丁寧で、適切な言葉遣いをしているはずですが、環境を整えるにあたっては、「言葉の乱れ」を直すことも忘れてはなりません。若者言葉や敬語の使い方 (学校だより 24・27・34・36・37・38・41 号に記載) などに関わるものですが、これが相手や場面にふさわしくない形で使われた場合には、円滑なコミュニケーションが損なわれてしまいます。

言語環境がしっかりと整備されているからこそ、TPO に応じた言葉遣いができるのだと言い換えることができるかもしれません。いつも補習校は、「日本語環境が整っている。」と言われるようにしたいものです。

この夏、約60家庭の園児児童生徒が一時帰国をし、その多くは幼稚園、小学校、中学校に体験入学 (園) をします。特に、幼稚園や低学年児童は、日本の幼稚園、小学校と類似した環境から、毎日が日本語の環境になり、多人数の中で学習します。このように、お子様の日本語環境を意図的に作りだし、日本語力を積み上げてほしいと願っています。一時帰国し体験入学 (園) をする人を含め、補習校教職員は、時間と労力を惜しむことなく子どもたちに注ぎ、より一層、日本語環境を整えていきます。

～ 茶 道 教 室 ～

5月24日(土)
に、小学部6年生
はショーイング・
ジャパンの皆様の
ご協力により、茶
道を通して日本文
化に触れることが
できました。子ども
たちは貴重な経験
をどのように感じ、
それをどのように言葉
で表現しているの
でしょうか。日記や
作文を2週にわたり
紹介します。



B 組 岡本 リオ

日本には、たくさんの伝統があります。茶道はその一つです。ぼくは、初めてだったのでうれしかったです。茶道は、リラックスして、静かな時間の中で抹茶を飲むことです。感謝の気持ちとおもてなしの心を忘れないようにしなければいけません。茶道は、楽しくてお茶もおいしかったけれど、足がしびれておじいちゃんになったみたいでした。でも、もう1回やってみたいです。

B 組 リッテンマイヤー 珠乃

先週の茶道会では、平成からむろまち時代へタイムスリップしました。私の茶道のけいけんがよみがえり、きれいなゆかたを着て、とても楽しかったです。教室がしずまり、色々な音を楽しみました。まほうの様にきれいな手さばきの亭主さんは、私のあこがれの様になりました。足がとってもしびれましたが、まじめに見とれてしまいました。お茶の香り、お菓子の甘みは忘れられません。それと、武士たちもお茶せきを楽しんでいたとはおどろきました。どくとくの空間で茶を楽しむ、日本らしい物です。このお茶せきなどで、むろまち時代、日本のれきしなど、いろいろな事とつながり、だんだん楽しくなってきました。ありがとうございました。

B 組 加地 紫苑

今日は、生まれて初めての『お茶会』。日本で買った私のお気に入りのゆかたですます胸が高鳴った。会場は6年 B 組の教室で、中に入るといつもの風景とはちがい、丸々“茶室”と化していた。少しどっさりした。いよいよ茶室に入り、“来客”となる出番が来た。今までプリントやショーイングジャパンの人たちの話を聞いて頭に入れたつもりだったが、いざやってみると、きん張もあってか、頭が真っ白になってしまう。。。でも、そんな私を手助けしてくれたのは、ショーイングジャパンの方々だった。そして、何とかおかしを食べ、お抹茶をいただいた。

おかしはほんのり甘く、「作法どおりにいただけるか。。。」ときん張っていた私の心と体を落ち着かせてくれた。抹茶は、一口飲むと、何ともいえないお茶のしぶみと甘みが口の中を水の波紋のように広がった。飲み終わってから、私は今、“日本の文化”に溶けこんでいるんだと気づいた。この静けさで礼儀を表しつつ、点主のお茶立てをみてきれいだなあと。。。と感じる。これが、日本の日本らしいところなのだ。。。。

B 組 川西 諒一

今日は、5、6校時を使って、お茶会がありました。ショーイングジャパンの方が、千利休、点前、和敬清寂等、説明してくれました。点前をしている間、正座をするのですが、慣れないせいか、足がしびれてたまりませんでした。自分の順番が来た時、おじぎをすると、たたみのおいがなつかしいと感じました。おかしも抹茶も家で飲んでいたのに、苦くはありませんでした。正座はしびれて辛かったけれども、日本の茶道が体験できて良かったです。

子どもたちは、茶道を体験できる嬉しさと初めての体験からくる緊張、この体で感じた素直な気持ちを言葉で表現しています。体験とは、耳・口・鼻・目で感じ、指で触れるなどして得られるものだということが日記から読み取ることができました。

◆パトロール当番予定表 6月21日

学年	順位	児童生徒氏名
★AM1	リーダー	小6 2 2 武井 紀博
	2	2 3 原 裕太郎
	3	2 4 中山 英明
	4	2 5 木村 勇作
	5	2 6 ヘイス ポール 聡
	6	2 8 岩本 郁人
★PM1	リーダー	2 9 高橋 裕太
	2	3 0 大沢 真琳
	3	中1 1 クリスト 和丸
	4	2 岩本 結衣
	5	3 全 伽蓮
	6	4 村田 響

<転出>

上杉 蓮君(幼月) 福原 亜季さん(小2 B)
上杉 楓さん(小5 B) 福原 寛之君(小6 A)
福原 康平君(中3) ヒューストン生活に長短
はありますが、これからたくさんの思い出とたくさん
の友人を大切にして、日本での活躍を祈念いた
します。みなさん、お元気で、さようなら。

<転入> もりきた かずしくん(小1 B)

ようこそ、ほしゅうこうへ。わからないことがあ
ったら、おともだちやせんせいにたずねてください。
みなさん、よろしくおねがいします。